



▲支援地区での物資配布の様子（写真左）、事業地であるシャン州の被害の様子（写真右）

▼ 目次【VOL.155】

2-3 【世界の今を知る】

2025年ミャンマー中部地震 被害
状況と被災者支援活動の現場から

4-5 FUNN活動レポート

6 FUNN加盟団体活動レポート

7 NGO相談員報告・イベント情報

今年の3月28日、ミャンマーにて大きな地震が発生しました。被害の規模は大きく、現在も数多くのNGOがミャンマー地震の支援活動を行っています。

今月号の「世界の今を知る」ではFUNNの正会員団体で、ミャンマーで支援活動を行う認定NPO法人地球市民の会にミャンマー地震と団体が実施する支援活動について報告していただきました。

記事は次のページから >>>

1. 地震の被害状況

2025年3月28日の現地時間12時50分、ミャンマー中部マンダレー近郊を震源とするマグニチュード7.7の大地震が発生しました。この地震は、現地に甚大な被害をもたらしました。本稿では、地震の概要と現地の被災状況、そして困難な情勢下での被災者支援活動の展開について詳述します。

地震発生直後、国家統治評議会(SAC)は地震による死者は3,003人、負傷者は4,515人、行方不明者は351人に上ると発表しました。特にマンダレー地域での被害が甚大で、家屋やビル5,972棟、学校168校が倒壊や損壊の被害を受けました。その後死者や負傷者は増え続け、5月18日時点では死者4,484人、負傷者11,366人(出所：DVB)に上っています。また、主要幹線道路の橋梁崩壊や道路の寸断、国際空港の管制塔倒壊など、インフラへの被害も深刻であり、その多くは発災後2か月以上経った現在も修復されていません。

◎被災地の現状

地震発災後、電気・水道・通信網などのライフラインが広範囲で停止、住民は屋外での避難生活を余儀なくされました。発災時は年間を通して最も暑い「暑季」にあたり、日中は40℃を超える酷暑の中、衛生環境の悪化や感染症流行が懸念されました。5月半ばから雨季に入り、連日の降雨による衛生環境の更なる悪化へ懸念が高まっています。また、国連によると発災後1か月の時点で必要な支援額は2億7,500万ドル、実際に支援された額は3,380万ドル(必要額の12%)と発表しており、この数字からいかに現地に支援が届いていないかがわかります。

2. 被災者支援活動について

2021年のクーデター以降、政情不安が続き、国際的な人道支援活動にも大きな制約が課されています。こうした中、私たちは現地提携団体や地域コミュニティと密接に連携し、被災者支援を展開しています。今回の地震は震源地近くのマンダレーやザガインで最も被害が大きかったものの、当会の事業地のシャン州でも家屋の倒壊やそれに伴う死者が多く出ました。私たちは、土地勘があり物資の手配も可能な事業地内へは当会現地スタッフを通じて直接支援を、事業地外の震源地付近へは現地提携団体を通じて支援を実施しました。戦闘や複雑な現地情勢の中、確実に被災者の手元に支援が届くことを第一にしながら、支援を届ける人々の身の安全にも配慮が必要でした。

◎地球市民の会の支援内容

提携団体によるインターネットを利用したニーズ調査の結果を受けて、今被災地で何が必要とされているかを迅速に把握することができました。当会ではこれまでに8回の支援(5月末時点)を実施しました。

1) 緊急物資・生活必需品の提供

緊急支援として食料や飲料水、生活必需品を配布しました。

(実施場所)	(裨益)
・マンダレー、ザガイン地域	2,345世帯
・シャン州インレー地域	



▲インレー地区での物資の配布 ▲テント生活の状況(マンダレー地域)

(配布物)

- ・食料：米、油、塩
- ・飲料水
- ・生活必需品：ブルーシート、布団、蚊帳、ゴザ、ソーラーライト、衛生用品など

2) 現金給付

該当地域ではほぼ全世帯が農家であり、食料の確保は比較的容易でした。一方、家屋の倒壊が顕著であったものの、現金収入が少なく家の再建が困難であると判断し、現金給付を行いました。

(実施場所)	(裨益)
シャン州ピンラウン地域	163世帯

3) 住居再建支援

該当地域は、湖上生活者が家屋倒壊の被害を受けました。比較的支援物資が集まりやすい場所でしたが、ボート上で避難生活を送る人々も多く「物資をもらっても、ボートの上ではストックできる量に限りがあ」という声も聞かれました。そのため、住居再建が喫緊の課題と判断し、建材としての竹の購入を支援しました。

(実施場所)	(裨益)
シャン州インレー地域	14世帯



水上生活者居住地域の被害の様子



インレー地区住宅再建資材

3. 支援活動の特徴と意義

◎現地提携団体との連携

政情不安や治安悪化の中、様々な要因で海外からの直接支援は困難を極めています。そのため、私たちは現地スタッフや地域に根差した提携団体と連携し、地域の実情やニーズを的確に把握しながら支援を届けています。このアプローチにより、外部からのアクセスが難しい地域にも迅速かつ柔軟に支援が届けられました。

◎ニーズに即した柔軟な支援

現地の状況や住民の声を反映し、支援内容を随時見直しながら活動を進めました。例えば、雨季への備えとしてブルーシートを配布したり、地域によっては現金を給付したりするなど、被災者の「今、必要なもの」に応える支援を展開しています。

また、緊急支援だけでなく、政変後困難な状況にある子どもの教育支援、心理的ケアなど、中長期的な視点を持った包括的な支援の必要性も強く感じています。今後はそのような分野でのサポートも実施していきたいと考えています。

4. おわりに

今回の地震が、政情不安やインフラの脆弱さが重なる中で発生したことから、被災者の生活は極めて厳しい状況に置かれています。こうした中、現地提携団体と連携した支援活動は、被災者の命と尊厳を守る上で不可欠な役割を果たしています。今後も現地の声に寄り添い、柔軟かつ持続的な支援が求められています。当会では、現地の方々の手元に確実に支援を届けることで、少しでも被災者の不安が解消され、被災地の復興と人々の希望につながることを心より願っています。（報告：認定NPO法人地球市民の会 柴田京子）

【開催報告】令和6年度九州地域NGO活動助成金報告会

2025年4月25日福岡市国際会館にて、令和6年度九州地域NGO活動助成金報告会を開催いたしました。当日は令和6年度に採択され事業が完了した6団体の関係者の方や助成金審査委員、共同主催者である真如苑社会交流課担当者の方にご参加いただきました。

発表いただいた団体それぞれから当助成金を活用した事業報告を資料や写真を投影しながら行っていただき、短い報告時間ではありましたがそれぞれの報告のあとに質疑応答や感想などのフィードバックが行われお互いに活動の振り返りや今後の参考になるような時間となりました。当助成金を活用したプロジェクトは海外支援や組織の基盤整備、また文化交流や地域における多文化共生事業等様々な内容で、全てのプロジェクトで大切にご活用いただき、その報告を直接お話しいただきました。各団体の実施報告の後、当日参加した審査員の方々や真如苑担当者の方より報告へのコメントを頂きました。採択団体から直接お話をお伺いすることで、当助成金がどのように役立てられたかをより詳しく知ることができました。報告会終了後は簡単な懇親会を開催。参加された団体さん同士で談笑を交えながら交流されていました。（報告：NGO福岡ネットワーク事務局 松崎 浩平）



▲助成金報告会の様子



▲報告会後の交流会の様子

【開催報告】西南学院大学にて国際協力セミナーを実施しました

今年度は西南学院大学ボランティアセンター様との協力で、2025年6月4日に西南学院大学にて国際協力セミナーを実施いたしました。

本セミナーは主に今年度海外ボランティアに行くことを検討している学生を対象として、国際協力やNGOとは何か、大学生にもできる国際協力について、海外ボランティアでできる経験やボランティアに行く前の心構えについて、同大学にてお話をしました。

当日は85名の学生に参加いただき、多くの学生さんが時に頷いたりしながら熱心に話を聞いてくれている姿が印象的でした。セミナー後には直接相談や質問に来てくれる学生もあり、国際協力や海外ボランティアに関する興味関心の高さを感じることが出来ました。

（報告：NGO福岡ネットワーク事務局 多原 真美）



▲国際協力セミナーの様子

【開催報告】2025年度総会報告

2025年5月24日、今年度のFUNN通常総会を、びおとーぷを会場にハイブリッド形式で開催しました。出席8団体、委任・表決8団体、個人の方も含め12名の方にご参加いただきました。議案はすべて承認いただき、6月で任期満了となる役員も一部入れ替わりリフレッシュした体制となります。

総会は活動を振り返り次の作戦を練る良い機会です。FUNNでは3年前から「明日のFUNN」プロジェクトと題し、活動分野ごとに中期と短期の目標をたてて取り組むようにしてきました。これまで引き継いできた活動に加え、昨年は「多文化共生の担い手がつながるプラットフォーム・福岡」（たぶプラ）に取り組み、新しい出会いが広がったことが大きな変化だったと思います。運営面では懸案だった情報セキュリティについて規定やマニュアルが整理できました。NGO相談事業の中では、3県へのアウトリーチができ、今後につなげたいと思っています。しかしそれぞれに課題も多く、参加の広がりや内容の充実、他の規定の整備、アプローチができていない地域への展開など、少しずつでも歩を進めたいと思います。一方で今の体制に対し過多ではとの心配もいただき、検討していきたいと思っています。皆さまの力添えを今年度もよろしくお願いします。



▲総会の様子

（報告：NGO福岡ネットワーク事務局長 安村 妙）

たぶプラ・福岡 今年度の活動のご案内



←昨年度の活動についてはこちら

◎たぶプラ・福岡とは？

地域で外国人の方を支える活動している団体や個人の方が、悩みや課題を共有し、今後も活動を継続できるようにするために『まずは活動している団体や個人がお互いに知り合う場作りをしよう』という考えからできたのが「多文化共生の担い手がつながるプラットフォーム福岡（通称：たぶプラ・福岡）」です。

◎今年度の活動について

・今年度もたぶプラミーティングを開催します！

今年度も多文化共生や在留外国人支援に関わる個人／団体同士が集まる場として、たぶプラミーティングを開催いたします！昨年同様福岡県の4地域で集まりを開催し、つながりづくりを実施していきます。

・たぶプラ・福岡のホームページを作ります！

たぶプラミーティング以外でも専門的な知見を持つ方と活動を実施している参加者が自由に知り合い・交流できること、困り事が起きた際の情報提供をできることを目的とし、たぶプラ・福岡のHPを作成します！

・保健医療従事者のネットワーキングと「たぶプラ福岡」を活用した地域連携を実施します！

福岡県内で外国人患者受入を進めている医療機関等とのネットワークを形成し、情報を発信していきます。

◎コアメンバー募集中！

たぶプラ・福岡では一緒に活動するメンバーを募集しています！関心がある方はFUNNまでご連絡下さい！

新加盟団体紹介

AfricAsiA（アフリカジア） 団体紹介・活動紹介

AfricAsiA（アフリカジア）は、アフリカおよびアジア地域で活動する任意団体です。現地におけるジェンダー差別やHIV、障がいと共に生きる人々を支援し、経済的自立や地域でのエンパワーメントを促進することで、彼らが抱える“生きづらさ”の解消し、すべての人が活躍できる社会の実現を目標に活動しています。

当団体の主な活動国は、アフリカの馬拉ウイとアジアのミャンマーです。馬拉ウイでは、現地の医療機関や学校と連携し、HIV/エイズ対策、感染症および水衛生、ジェンダー平等（特に女性支援）を柱とした活動を展開しています。昨年度は、HIV陽性の女性を対象にした石鹼づくりによる職業訓練と収入向上の取り組み、小学校の給食



▲馬拉ウイでの石鹼製作事業の様子

室建設による衛生環境の整備などを実施しました。一方、ミャンマーでは近年の政情不安により、緊急支援事業を中心に活動しています。今年3月に発生した地震の際には、被災地への医薬品や支援物資の提供を行いました。

またAfricAsiAでは、対象国のHIV陽性者や障がいのある方々が製作したハンドメイド商品の販売を収益事業として行っています。製作者に利益を還元するとともに、収益の一部は現地での活動資金として活用しています。オンラインでの販売に加え、今年度も9月10日～15日には鶴屋百貨店様にてポップアップショップの開催を予定しております。ぜひお立ち寄りください。（文章：AfricAsiA代表 渡邊 亜美）



▲ハンドメイド雑貨物販の様子

NPO法人トゥマンハティふくおか

インドネシア共和国どんたく隊として「博多どんたく港まつり」に参加

毎年5月3、4日に開催される「博多どんたく港まつり」。今年は天候にも恵まれ、人出は235万人とコロナ禍後では最多、見どころの一つのパレードには、約200の団体から1万8000人が参加したそうです。

NPO法人トゥマンハティふくおかも、法人化直後の2015年より、在日インドネシア留学生協会福岡支部とともに、日本とインドネシアの友好をアピールする「インドネシア共和国どんたく隊」として、この祭りに積極的に参加しています。近年では、東京から駐日インドネシア大使館をお招きし、また九州各地の技能実習生たちも誘って、祭りをみんなで楽しんでいます。ステージでは、西ジャワ州発祥の竹楽器・アンクルン演奏、スマトラ島北部アチエ州のサマン踊り、スラウェシ島マカッサルのパドウツパ踊りを披露し、多民族国家ならではの魅力をPR。またパレードでは、インドネシアでポピュラーな歌をみんなで歌いながら明治通り約1.3キロを練り歩き、沿道の皆様に、インドネシア人と日本人の仲の良さと、元気で陽気なインドネシアの若者たちを強く印象づけることができました。既に来年は東ジャワ州の踊りと鉦や太鼓でパレードしたいと検討中です。どんたくは参加しないと面白くありません。来年は皆さんも一緒にパレードに参加しましょう。（報告：NPO法人トゥマンハティふくおか代表 弥栄睦子）



▲パレードの参加者は約250名



NGO相談員活動レポート

海外ボランティア・
国際協力に関する相
談はコチラから→



令和7年度外務省NGO相談員九州ブロック担当を受託しました

FUNNは外務省よりNGO活動環境整備支援事業の「令和7年度外務省NGO相談員」九州ブロック担当を受託しました。この制度によりNGOや国際協力に関するお問い合わせやご相談、出張サービスに当団体の職員が無料で対応することが出来ます。九州各県で、NGOや国際協力に関するお問い合わせやご相談はぜひFUNNまでご連絡下さい！



西南女学院大学で出張授業を行いました

5月2日、西南女学院大学（北九州市）にて、NGO相談員出張サービスの一環として「国際協力とグローバルマインド」をテーマに英語学科の1年生を対象に出張授業を行いました。授業では、NGOや国際協力の基礎知識に加え、日本に暮らす私たちにもできる身近なアクションや、NGOスタッフの経験から考える「グローバルマインド」について、ワークも交えてお伝えしました。

参加した学生さんからは「日本国内にいて自分たちにも海外支援のためにできることがあることが知れて良かった」「将来の進路と結びつけて自分ができるようなことを考える機会になった」という感想をいただきました。学生の皆さんが楽しみながら学び、国際協力への理解と関心を深める機会となりました。（報告：NGO福岡ネットワーク事務局 松崎 浩平）



▲出張授業の様子

FUNN周辺 “おすすめイベント” 情報

【ISAPH】ISAPH事業報告会

今年もISAPHの事業報告会を開催いたします！いつもご支援くださっている皆様、ISAPHの活動にご関心をお寄せいただいている皆様へ向けた報告会です。会場+オンラインのハイブリット開催、参加無料(応援チケットあり)ですので、どうぞお気軽にご参加下さいね！

- ◆開催日時：2025年7月26日(土)14:00-16:00
- ※15:00～懇親会(希望者のみ)
- ◆開催場所：会場（定員：10名）
 - …認定NPO法人ISAPH東京事務所・会議室（東京都港区新橋3-5-2新橋OWKビル3F）
- ・オンライン（定員：50名）
 - …ZOOM(開催日前日にメールにてお知らせいたします)
- ◆参加費：基本無料 ※応援チケット(ご寄付)あり
- ◆お申込み方法：Peaixにてお申込みください。
<https://isaph-houkokukai0726.peatix.com/>
 申込〆切…7/25(金)17:00まで
- ◆お問合せ：ISAPH事務局・村上

【FUNN】倶楽部FUNN7月

気候変動とバングラデシュ

倶楽部FUNNとは、国際協力の現場で活躍する人やいろいろな国の人からお話が聞けるイベント。7月は山田英行さん（バングラデシュと手をつなぐ会 事務局）に「気候変動とバングラデシュ」と題してお話していただきます。

- ◆日程：2025年7月26日（土）15:00～17:00
- ◆場所：NPO共同事務所びおとーぶ（〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目6-1小森ビル4A）もしくはオンライン
- ◆参加費：無料（どなたでも参加できます）
- ◆内容：温暖化による海面上昇が引き起こす浸食で水没地域が拡大しているバングラデシュ。温暖化ガスを排出してない途上国に被害が及ぶ状況、気候正義について皆さんと考えたいと思います。
- ◆申込み・お問合わせ：NGO福岡ネットワーク

二ノ坂代表より新年度挨拶

まず、これまでのNGO福岡ネットワークの活動への協力、支援に感謝いたします。

世界では、気候変動（気候危機）に伴うと思われる災害が各地で起こっています。また、ウクライナ、ガザ、スーダン、コンゴ、それにミャンマーなど各地で戦いが続いています。心が痛みますが、その中で私たちが何ができるのか、何をすべきかを考えて、前に進むしかないと思っています。引き続き参加各団体、協力者の皆様のご活躍とご協力、ご支援をお願いいたします。

FUNNは昨年も、行動指針＜人と世界をつなぐ＞＜NGOに関わる人と人をつなぐ＞＜NGOと他セクターをつなぐ＞に基づいて着実な活動を続けてきました。国際協力ニュース及びメールマガジンの発行、倶楽部FUNN、NGOカレッジ、それに九州各地に出かけてのNGO相談、加えて昨年度は新たに「たぶプラ・福岡」活動を開始しました。これは、我が国に在住する外国人の生活を支える活動の基盤づくりを目指すもので、2024年度はその活動に関わる個人・団体が互いに知り合うことから始めようと、各地でのミーティングを行いました。日本社会の中で、様々な困難を抱えながら生活している方たちと交流し、各地でコツコツと在留外国人を支える活動を行っている方たちと出会い、その方たちの緩やかなネットワークを作っていきたいと考えています。

今年度も、NGO福岡ネットワークへの参加・協力、ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

NGOの活動
を知りたい！

参加するには？
何ができる？

NGO相談 受付中

ご相談おまちしております
メール・電話にてお問合せください

特定非営利活動法人
NGO福岡ネットワーク

FUNN会員募集中！※金額は年会費です。詳細はORコードページまで！

- ・正会員（団体） ¥10,000 ・賛助会員（企業） ¥30,000
- ・賛助会員（個人） ¥6,000 ・通信会員（個人） ¥3,000



寄付の振込先 ※会費振込もこちらの口座まで

【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク
 カナ名：トクヒ エヌジーオーフクオカネットワーク
 支店番号：208 （赤坂門支店）
 口座番号：普通 1641291

【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク
 口座番号：01790-7-89478
 ※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。



編集後記

今月号の「世界の今を知る」ではミャンマーで起こった地震とその支援活動についての記事を、地球市民の会の柴田様に執筆いただきました。当団体の正会員団体では地球市民の会の他にも、難民を助ける会やAfricAsiaも地震に対する支援活動を実施しています。困難な情勢下での活動は今後も続きます。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。（編集：多原）



FUNN正会員団体リスト

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ● * (認定)NPO法人ISAPH | ● * チベットを知る会 |
| ● * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム | ● * NPO法人トゥマンハティふくおか |
| ● * (特活) アジア女性センター | ● * 認定NPO法人難民を助ける会 |
| ● * AfricAsia | ● * ネパール歯科保健医療協会(ADCN) |
| ● * (一社) NTDs Youthの会 | ● * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会 |
| ● * (特活) 九州海外協力協会 | ● * PP21ふくおか自由学校 |
| ● * 債務と貧困を考えるジュビリー九州 | ● * 福岡YMCA |
| ● * JVC九州ネットワーク | ● * フレンズ国際ワークキャンプ九州 |
| ● * (特活) じゃっど | ● * (一社) ミドリゼーションプロジェクト |
| ● * 認定NPO法人地球市民の会 | ● * (一社)モザンビークのいのちをつなぐ会 |

【編集・発行】

F4UNN 特定非営利活動法人
NGO福岡ネットワーク

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-6-1

小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ
最新情報はコチラから



* 受付時間：火～土 13:00～18:00

* 日・月・祝・・・休み



092-405-9870



funn@ngofukuoka.net



https://ngofukuoka.net/